

平成24年度事業報告

1. 日独学術文化に関する研究並びにその助成（寄附行為第4条第1号）

公開シンポジウムの開催 平成25年2月10日（日）京都大学人間・環境学研究科棟地下大講義室において、第22回公開シンポジウムを開催した。連続テーマ『生と死』の第4回目として、中井吉英氏（関西医科大学名誉教授・洛西ニュータウン病院名誉院長・心療内科部長）に「一臨床医の生死観」、丸橋裕氏（兵庫県立大学教授）に「生命のうちなる死 — V・v・ヴァイツゼカーの〈医学的人間学〉の可能性」と題する基調講演を依頼した。また、パネル討論では講演者をパネラーに迎え、司会に木村敏氏（京都大学名誉教授、日独文化研究所常務理事）、コメンテータとして、谷徹氏（本研究所理事・立命館大学教授）、秋富克哉氏（本研究所理事・京都工芸繊維大学教授）の各氏に依頼した。約110名の参加を得て活発な討論が展開された。

2. 日独学術文化に関する図書雑誌の編集及び出版刊行（寄附行為第4条第2号）

年報の刊行 出版社をこぶし書房に変更して、平成23年度年報「文明と哲学」第4号の刊行を平成24年6月におこなった。なお、平成24年度の年報として第5号を製本中である。

3. 日独学術文化に関する講習会・講演会等の開催（寄附行為第4条第3号）

哲学講座の開講 一般市民を対象とする哲学講座を再開した。

（1）初秋講座 連続テーマ「ハイデッガー」の第一回として、エトムント・フッサールをとりあげ、谷徹氏を講師に「ハイデッガー（1）・ハイデッガーとフッサール」全6回をおこない、毎回約30名の受講生を迎えた。平成24年9月29日（土）第1回・第2回、平成24年10月13日（土）第3回・第4回、平成24年10月20日（土）第5回・第6回 いずれもゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川小ホール

（2）初春講座 「知の諸層」の第一回として、アリストテレスをとりあげ、日下部吉信氏（立命館大学名誉教授）を講師に「アリストテレス講義・6講」全6回をおこない、毎回約20名の受講生を迎えた。平成25年2月2日（土）第1回、平成25年2月9日（土）第2回、平成25年2月16日（土）第3回、平成25年2月23日（土）第4回、平成25年3月2日（土）第5回、平成25年3月9日（土）第6回 いずれもゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川小ホール

4. 日独学術文化に関する図書及び資料の収集、公開及び配布（寄附行為第4条第4号）

（1）所内報の刊行 活動内容や事業報告を一般の人々にもわかりやすいようにとりまとめ、賛助会員をはじめ、事業などにおいて配布した。研究所の活動を広く知らしめるものとして、今後も年一回刊行する予定。

（2）岡本先生お別れの会 平成24年7月24日に逝去した前理事長・所長岡本道雄先生のお別れの会を京都大学と共催でおこなった。岡本先生の文章や写真を取りまとめた記録を参列者に配布した。研究所の活動を知らしめ、岡本道雄先生の偉功をしのぶものとなった。

5. 日独学術文化に関する研究者の招待、派遣及び交換（寄附行為第4条第5号）

法学系において、国内の学会及び大学と連携して、ドイツから学者を招待して講演を依頼した。また講演をきっかけとした日本の若手研究者の交流会を支援した。

（1）クリストフ・メラース教授講演会 「権力分立理論についてーケルゼン理論を顧慮しての理論的・比較的考察」クリストフ・メラース氏（ドイツ・フンボルト大学教授）平成25年2月23日（土）大阪大学待兼山会館（大阪大学法学研究科・高等司法研究科と共催）

（2）クリストフ・シェーンベルガー教授講演会 「bundet (Bund) としての欧州連合」クリストフ・シェーンベルガー氏（ドイツ・コンスタンツ大学教授）（通訳；大西楠テア氏）平成25年3月9日（土）大阪大学中之島センター（大阪大学法学研究科・高等司法研究科と共催）

（3）ドイツ法若手研究者交流会 平成25年3月5日（火）東京大学山上会館

6. 賛助会員年次総会の開催（寄附行為第4条第7号）

平成24年11月26日（月）京都全日空ホテルにて平成24年度賛助会員年次総会を開催した。講演会を秋富克哉氏に「「科学者の社会的責任」再考ー唐木順三の遺言から」の演題で依頼した。また、音楽会として筑前琵琶の演奏「壇の浦悲曲」を田中旭泉氏に依頼した。引き続き、懇親会をおこない、約70名の賛助会員との交流を深めた。